《参考》

手洗いの時間・回数による効果を確認する実験

この実験では、ノロウイルスの代替指標として、同じカリシウイルス科に属するネコカリシウイルスを実験開始時に両手指に摺りこみ、手洗いの条件を変え、それぞれのウイルス除去効果を確認しました。

手洗い方法	残存ウイルス(残存率*)
実験開始時に摺りこんだウイルスの数	約 1,000,000 個
流水によるすすぎのみで 15 秒洗う	約 10,000 個 (約1%)
アルコールを 3 回噴霧し、10 秒間両手に摺りこんだ後、流水で 15 秒すすぐ	数 1000 個 (約0.1%)
ハンドソープで 10 秒または 30 秒もみ洗い後、流水で 15 秒すすぐ	数 100 個 (約0.01%)
ハンドソープで60秒もみ洗い後、流水で15秒すすぐ	数 10 個 (約0.001%)
ハンドソープで 10 秒もみ洗い後、流水で 15 秒すすぐことを 2 回繰り返す	数 個 (約 0.0001%)

(*)実験開始前(手洗いなし)と比較した場合

(注意) この実験の結果は、「時間をかけて、より丁寧に、より頻回の手洗いをする事で、ウイルス除去効果が高まる」という傾向を示すものであり、具体的に何秒、何回の手洗いをする事を推奨するものではありません。

<出典元> 森功次他:感染症誌 80:496-500,2006